

# ポローニア

ポローニアは県花「桐」の学名です。

第34号

2015-7

平成27年7月16日発行

発行 岩手県高等学校PTA連合会

【事務局】盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019)625-6386  
E-mail iwa\_koupren@ybb.ne.jp FAX (019)613-7795

## 平成27年度 県高P連 定期総会・研究協議会開催

6月5日、68校の各PTA会長、副会長、校長、事務局長ら約250人がサンセール盛岡（盛岡市）に参集して開かれました。8月の全国高等学校PTA連合会岩手大会の開催等を盛り込んだ今年度の事業計画が承認された後、役員改選。新会長には渡辺正和盛岡一高PTA会長が就任。渡辺会長は「1万人も集まる全国大会が8月に開かれるというこのタイミングで会長に就任とは…。プレッシャーを感じます。どうか力を貸して下さい。力を合わせて全員参加の活動を」と就任あいさつ。渡辺会長は実行委員長も務め、新体制で全国大会に取り組みます。



▲最前列で表彰を受ける功労者と総会出席者

議事に先立って行われた表彰式では各校の役員ら65人が表彰されました。県高P連副会長を務めた遠野緑峰高会長の昆明美さんが代表して「大事に育てた長男が亡くなったのは、この3月に卒業した下の息子が高校入学したばかりの時。下ばかり向いていては息子に申し訳ないと、2年目からPTA活動に打ち込み、3年目は健全育成委員会に所属して、いろいろ学ばせていただき、本当に楽しかったです。たくさんの仲間も出来、こんなに楽しい人生があったのかと思います。これも、亡くなった息子からのご褒美かな、と。子どもを健やかに安全に育てて、立派に社会に送り出してやること。それがPTA活動だと思えます」と謝辞を述べました。

第19回広報紙コンクールの入賞高も表彰され、盛岡第四のPTA会報は東北地区で優秀賞を受賞しました（2面に表彰者と入賞校を掲載）。

退任した内館茂前会長には2年間の功労をたたえて感謝状が贈られ、退任のあいさつで「今後は後ろから支えていきます」と述べました。

平成26年度会務報告、同収支決算、27年度活動方針と事業計画、同収支予算など提出6議案はいずれも原案通り了承されました。活動方針では関係団体などとの連携を密にして活動を推進し、生徒が安全で安心して高校生活を送れる教育環境の整備に努めることに。27年度一般会計収支予算は前年度より116万8777円多い、総額1271万2768円に。各PTAの活動に補助（一団体5万円を上限）をする特別助成金の枠が東日本震災以来4年ぶりに拡大、積極的な活動を呼びかけます。

今総会の研究協議会は全国高P連岩手大会の計画説明にあてられ、高橋秀幸事務局長が計画内容や予算、参加申請などについて説明。大会は8月19日、21日までで、メイン会場は滝沢市の岩手県産業文化センター、サブ会場は盛岡市のアイスアリーナ。メインテーマは「未来圏からの風をつかめ!」。サブテーマは「新時代を

担う君たちと共に」で、全国から9500人の参加者を見込んでいます。開会式では盛岡一高出身の超伝導工学の第一人者として世界的に知られる村上雅人芝浦工業大学長が「夢高くして足地にありThe sky is the limit」をテーマに講演します。本県からも1200人の参加を見込んでおり、研究協議会の中で高橋事務局長が出席者に協力を呼びかけました。

総会の後、文芸評論家の吉見正信氏の講演「宮澤賢治の未来形思考」がありました。



講師 吉見正信氏  
(文芸評論家)

### 研究協議後の講演から 演題「宮澤賢治の未来形思考」

農民のためになる仕事をした賢治は当時の思想を先取りしていた。「注文の多い料理店」の序には「はたけや森の中で、ひどいぼろぼろのきものが、いちばんすばらしいびらうどや羅紗や、宝石いりのきものに、かはつてゐるのをたびたび見ました」と書いている。賢治は農民の出身を見るから立派な姿に見えた。感性が自然界と一致していま

す。「野の福祉のために」という言葉も使った。自然の側にも権利があると賢治は見るのです。西洋は自然を敵視したが賢治はそうじゃない。賢治は岩手から生まれた宝。世界遺産のようなもの、皆さんも賢治の詩や童話に親しんでほしい。岩手に住んで60年。まだ毎日発見がある。北上川は日本列島を縦に流れる日本に一つしかない川です。東北地方の背骨になる。そういう自然に学ばないといけない。岩手の誇りを胸に、未来形思考を子どもたちに生かしてほしい。



▲総会で就任のあいさつをする渡辺正和副会長

# 表彰受賞者

# 新役員



▲感謝状を受け取る内館前会長

## ◆感謝状

岩手県高等学校PTA連合会会長 内館 茂

## ◆個人表彰

- 盛岡第二 副会長 佐久山淳子
- 盛岡第四 副会長 久慈あけみ
- 盛岡北 副会長 太野 忍
- 盛岡南 副会長 佐藤 達見
- 不来方 副会長 荒川ルミ子
- 盛岡農業 副会長 井上 勝巳
- 盛岡農業 副会長 米田ミドリ
- 盛岡工業 副会長 藤澤 幸美
- 盛岡工業 副会長 橘 きみ子
- 盛岡商業 副会長 高橋 きみ子
- 紫波総合 副会長 岩間 幸子
- 盛岡市立 副会長 川村 幸子
- 盛岡市立 副会長 真田由美子
- 盛岡市立 副会長 瀬川 賢孝
- 花巻南 副会長 千葉 秀彦
- 花巻南 副会長 岩泉 美穂
- 花巻南 副会長 石黒 竜也
- 大 迫 副会長 佐々木洋子
- 黒沢尻北 副会長 和賀 匡彦
- 黒沢尻工 副会長 高橋 幸二

- 会長 渡辺 正和 (盛岡第一)
- 副会長 沼田 昭 (盛岡市立)
- 理事 高橋由紀恵 (黒沢尻工)
- 千葉 弘之 (千 既)
- 山崎由加利 (山 田)
- 細田美代子 (福岡工業)
- 小笠原千永 (不来方)
- 村上 貢一 (盛岡北)
- 大浦奈保子 (盛岡第三)
- 照井 陽子 (盛岡南)
- 堀田 圭二 (花北青雲)
- 高橋 宏 (西和賀)
- 及川 一枝 (水沢工業)
- 伊東 正廣 (大 東)
- 谷地 保 (大 船渡)
- 東梅 康悦 (大 槌)

- 西和賀 副会長 竹澤 健作
- 遠野 副会長 新里 佳子
- 遠野碧峰 副会長 昆 明美
- 水沢 副会長 三浦 勝博
- 杜陵奥州 副会長 本城麻由美
- 水沢農業 副会長 菊地 敏明
- 水沢工業 副会長 阿部 一憲
- 水沢商業 副会長 村上 信義
- 前 沢 副会長 岩 浩一
- 金ヶ崎 副会長 小原 浩一
- 岩谷 副会長 鎌田 文子
- 岩谷 副会長 柴田 純子
- 岩谷 副会長 近江 健司
- 一関第一 副会長 菊地 松夫
- 一関第二 副会長 若山 義典
- 一関第一 副会長 原田 哲
- 一関工業 副会長 佐藤 和弘
- 一関工業 副会長 今野 明伯
- 花 泉 副会長 葛西 信昭
- 大 東 副会長 菅原良一郎
- 千 厩 副会長 菅原良一郎
- 高 田 副会長 残間 潤
- 大船渡 副会長 佐藤 浩徳
- 大船渡 副会長 花崎 浩徳
- 住 田 副会長 村上 真紀
- 釜石 副会長 鈴木 昭博
- 釜石 副会長 原田 昭博
- 釜石 副会長 佐々木育子
- 釜石 副会長 中村 薫
- 宮古 副会長 松下 寛
- 宮古 副会長 伊藤 正
- 宮古 副会長 上山 靖
- 久 慈 副会長 久松希美子

- 大浦奈保子 (盛岡第三)
- 照井 陽子 (盛岡南)
- 堀田 圭二 (花北青雲)
- 高橋 宏 (西和賀)
- 及川 一枝 (水沢工業)
- 伊東 正廣 (大 東)
- 谷地 保 (大 船渡)
- 東梅 康悦 (大 槌)
- 長川 敏彦 (大 野)
- 上野 勝俊 (盛岡工業)
- 齋藤 政幸 (盛岡工業)
- 小野寺 寿 (水沢農業)
- 内館 茂 (前会長)
- 松尾 正弘 (元会長)
- 平賀 信二 (校長協会)

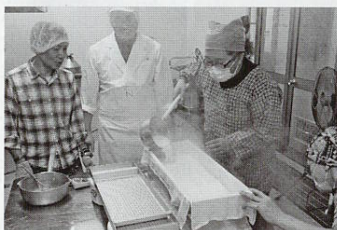
## 平成26年度岩手県高等学校PTA連合会 第19回広報紙コンクール入賞校

◆優秀賞	盛岡第四 ☆PTA会報 志高VOL.140	東北地区コンクール優秀賞
◆優良賞	水沢商業 ☆PTA会報水商第83号	東北地区コンクール奨励賞
	大船渡 ☆大船渡高校PTA会報さかみち第86号	東北地区コンクール優良賞
	盛岡第一 白壁PTA会報第96号	
	盛岡第三 盛岡三高PTA会報第98号	
	黒沢尻北 PTA会報黒陵vol.126	
	水沢工業 水工PTA会報第122号	
	大船渡東 大船渡東高PTA会報第17号	

(☆は東北地区広報紙コンクールへの推薦校)

- 久 慈 副会長 久松希美子
- 種 市 副会長 里村 延紀
- 大 野 副会長 林 つねみ
- 伊 保 副会長 小松 聡純
- 伊 保 副会長 中奥 達也
- 福 岡 副会長 坂本 雄二
- 福 岡 副会長 生内 剛
- 福 岡 副会長 馬場江利子
- 福 岡 副会長 名久井光子
- 福 岡 副会長 女鹿館 兼二
- 葛 巻 副会長 波紫 兼二
- 葛 巻 副会長 中六角保広
- 久 慈 副会長 里村 延紀
- 種 市 副会長 林 つねみ
- 大 野 副会長 小松 聡純
- 伊 保 副会長 中奥 達也
- 伊 保 副会長 坂本 雄二
- 福 岡 副会長 生内 剛
- 福 岡 副会長 馬場江利子
- 福 岡 副会長 名久井光子
- 福 岡 副会長 女鹿館 兼二
- 葛 巻 副会長 波紫 兼二
- 葛 巻 副会長 中六角保広

## PTA活動を通じて子どもや保護者とのつながりを大切に



▲母親委員会主催食品製造講座 豆腐づくり

豆腐づくり 出来立ての寄せ豆腐のうまさを実感できたことでした。その後、作りたての豆腐と白菜キムチを家に持ち帰り、製造過程の話をしなが家族みんなで楽しく食べていただきました。これからもPTA活動を通じて子どもや保護者の方々とつながりを大切にしていききたいと思えます。

母親委員会では、昨年は食品製造講座として昨年は「豆腐」と「白菜キムチ」の製作を行いました。普段、何気なく食している「豆腐」や「白菜キムチ」も、初めて製造過程を見て驚きの連続でした。そして一番良かったのは、

本校は今年で創立112年を迎える県内有数の伝統校です。農業科・環境工学科・生活科の3つの科で日本の農業を支えるための技術や知識を日々勉強しております。さて、本校PTA活動としては、主に水農祭(文化祭)でのPTA屋台出店や母親委員会での食品製造講座などがあります。水農祭(文化祭)ではPTAで屋台を出店して、フランクフルト・焼きそば・ポップコーンを調理して販売します。特に名物となっている焼きそばは、1日で400〜500食も売れます。もちろん、これほど大量に調理するわけですから、野菜炒め・麺はぐしと焼きそば盛り付けと3グループに分かれて仕事をしますが、かなり大変です。しかし、PTA会員の素晴らしいチームワークの良さがあるので大量調理も可能としています。



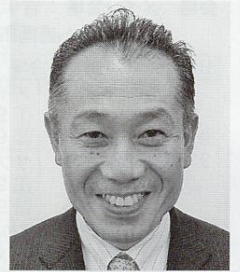
岩手県立水沢農業高等学校 PTA会長 小野寺 寿

# がんばる岩手 第9回

岩手県立不来方高等学校PTA会長 小笠原 千永



▲母親委員会 文化祭での調理の様子



本校PTA 母親委員会は、毎年「文化祭」において、炊き込みご飯と餃子を作り販売

来場者から大変好評をいただいております。委員の皆さんは、前日まで下準備で忙しく活動し、当日も早朝から調理室で調理を始めます。以前委員の方から「何百食と作るの大変ですが、買ってくださる方との会話、完売した時の喜びはひとしおです。」という言葉聞いたことがあり、PTA活動を下支えしていただいていることを実感しました。

また、売上金の大部分を本校復興支援事業に使用させていただいております。宮古北高等学校との文化交流にも役立てて

おり、双方の文化祭に生徒会を中心に訪問しあい、交流を深めています。

子供たちの頑張りに負けないよう、本校PTAも会員同士の交流を深めながら、「明るく楽しく元気よく」PTA活動を行っていきたいと思います。お互いに頑張



▲母親委員会 会議の様子

## 請求なければ支払いなし

### (一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA単位で加入する制度で発足後14年目となりました。

〈加入状況〉全 国 2,046校 1,224,906人  
岩手県 69校 28,402人

〈事故の際は〉全国高P連賠償責任補償制度事故受付電話  
0120-119-110

### 岩手県高校生総合補償制度

〈加入状況〉

Aプラン(病気補償あり) 62校 2,715人

Bプラン(病気補償なし) 61校 620人

Cプラン(自転車重点型) 62校 1,430人

〈引受保険会社〉

○AIU損害保険株式会社盛岡支店

TEL019(653)1411

## おらほのPTA



▲平成27年度東高祭でのPTAによる餅つき



▲平成27年度東北高校PTA連合会集合写真

ちへの声掛けを行っています。「研修旅行」は、震災後、開催を見合わせておりましたが、二年前に第一回目として再開したところです。研修を通じて保護者同士の交流を深めることができればと、今年も開催を企画しております。これからも子どもたちのため、様々な活動を続けていきたいと思っております。

親委員会の皆様の協力は欠かせないものとなっております。健全育成委員会では、年に数回「PTAあいさつ運動」として校門前で子どもたちの声掛けを行っています。

## 子供たちとともに伝統をつくる

岩手県立大船渡東高等学校 PTA会長

船砥 浩一



本校は、地域の産業教育の拠点校として、平成二十年に設立され、農芸科学科、機械科、電気電子科、情報処理科、食文化科を設置する総合的な専門高校です。

まだ設立してから八年目の学校ですので、子どもたちもPTAにとっても、今行っていることの積み重ねが、この先本校の伝統に繋がっていくのだと考えています。

PTAの体制は、総務、

# 大会迫る 発祥の地 岩手

## 第65回全国高等学校PTA連合会大会

第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会の開催がいよいよ来月に迫って参りました。実行委員会の皆様をはじめ、県内の各校の皆様にはご理解とご協力をいただきありがとうございます。本大会は全国のPTA会員約9500人が盛岡市、滝沢市に集まる大きな大会です。

岩手県は、全国高P連の発祥の地です。昭和27年、当時岩手県高P連会長の長岡文蔵氏の呼びかけで全国高等学校PTA協議会(全国高P連の前身)が発足し、結成大会が岩手県東京事務所において開催されました。これが「第1回全国大会」といわれています。そして、本年の岩手大会は、昭和36年開催の岩手県公会堂にお

る第11回大会以来初の「里帰り大会」でもあります。

PTAは多くの人々によって育まれてきた歴史があり、その時代を反映した課題をとりあげてきました。近年の急激な社会の変化の中で子どもたちが何を手にし何を失ってきているのか、何を考え何処を目指すべきか、子どもたち自身が確信を持たずにうろろしていることはないだろうか。本大会でもこれらを課題として、テーマ「未来圏からの風をつかめ! 新時代を担う君たちと共に」を掲げました。

宮澤賢治は「生徒諸君に寄せる」という詩の中で、これから先の時代を築いていく学生を叱咤激励しています。「未来圏から吹いてくる透明な清潔な風」という表現で進むべき未来への想像をかきたてています。未来からの風を感じ、輝かしい未来を想像して行動する若人でなければならぬと謳っております。今こそ、子どもたちに「未来圏から吹いてくる透明な清潔な風」を類に感じてほしい。手をかざして進むべき彼方を見つめてほしい。そして、奮い立つてほしい。加えて、私たち親もまた、若人のあるべき姿に思いを致し、これからの次代を担う子どもたちと共に未来圏について真剣に考えるときかと思うのです。

およそ50年に一度の本県開催です。岩手県のPTAが手を携え、全国からの皆様をお迎えいたしましょう。

## 大会概要・大会日程

### ●8月20日(木)……大会第1日目

《開会式・基調講演・アトラクション等》  
会場 メイン会場：岩手産業文化センター(アピオ)  
サブ会場：盛岡市アイスアリーナ

8:30	受付 各会場
9:00~9:30	アトラクション メイン会場 ① 9:00~ 盛岡市立高等学校吹奏楽部 ② 9:15~ 盛岡第二高等学校箏曲部 サブ会場 ① 9:00~ 岩泉高等学校郷土芸能同好会 ② 9:15~ 北上翔南高等学校鬼剣舞部
	開会式(開式の辞、国歌斉唱、大会会長式辞、実行委員長開会の挨拶、来賓祝辞「文部科学大臣、岩手県知事、盛岡市長、来賓紹介」表彰式「文部科学省、全国高P連」、閉式の辞)
9:40~10:40	基調講演 演題：「夢高くして足地にありThe sky is the limit」 講師：村上雅人氏(芝浦工業大学学長)
12:00~12:50	昼食アトラクション メイン会場 ① 12:20~ 岩手県立大学「さんさ踊り」実行委員会 ② 12:35~ 宮古水産高等学校太鼓部 サブ会場 ① 12:20~ 花巻北高等学校応援団 ② 12:15~ 大船渡東高等学校太鼓部
	12:50~14:00

《分科会》 14:90~10:30 テーマと会場

全国高P連研究発表	全国高P連研究発表 ~青少年の健全育成に係る研究発表~	岩手産業文化センター(アピオ)
第1分科会	学校教育とPTA ~「生きる力」を育む教育とPTA活動~	盛岡市アイスアリーナ
第2分科会	進路指導とPTA ~「キャリア教育」の推進とPTA活動~	岩手県民会館
第3分科会	生徒指導とPTA ~規範意識の醸成とPTA活動~	盛岡市民文化ホール
第4分科会	家庭教育とPTA ~家庭教育の役割とPTA活動~	盛岡グランドホテル
特別第1分科会	情報化社会と教育 ~スマートフォン・ネット依存と若者の生活スタイル~	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
特別第2分科会	防災教育・復興教育 ~「防災教育」「復興教育」の推進について~	都南文化会館(キャラホール)

### ●8月21日(金)……大会第2日目

《記念講演・閉会式》  
会場 メイン会場：岩手産業文化センター(アピオ)  
サブ会場：盛岡市アイスアリーナ

8:30	受付 各会場
9:00~9:50	アトラクション メイン会場 ① 9:00~ 盛岡市立高等学校吹奏楽部 ② 9:25~ 盛岡第二高等学校箏曲部 サブ会場 ① 9:00~ 岩泉高等学校郷土芸能同好会 ② 9:25~ 北上翔南高等学校鬼剣舞部
	10:00~11:10
11:20~12:00	閉会式(開式の辞、大会会長挨拶、大会宣言採択、全国高P連旗返還・授与、次期開催地挨拶、実行委員長挨拶、閉式の辞)

## 編集後記

緑と鳥の歌声がさわやかな毎日です。空梅雨かと思えば、局所的な豪雨に泣かされたり、予想をはるかに超える自然の驚異! 人間界も同じです。今の若者たちの考え、行動に驚かされています。「いじめ」や「暴力」…親の側の不安はますますです。思春期に入つての急激な肉体系や心の変化に、どう対応できるのか! 遠くまで近きは、幼少期の在り方ではなからうか…。今となつては取り返しがつかないことなのだが…。多忙な毎日の中で、子供ときちんと向き合えていなかったのでは? 子供を王子様・王女様扱いの傾向はなかったか? 親としての人生の先輩としての生き方を示しているのか…。考えてみれば、何一つできていないことに気付く。しかしながら今、ここで子供たちとの時間を取り戻そう。真剣に大上段に構えなくても、何気なくできる小さなことから始めよう。その小さな積み重ねが、子供を、家族を変えることにつながると信じる。

最近の少年事件も痛ましかった。そして、それは決して対岸の火事ではない。私たちの身近に起こり得ることなのである。「人間とは何か」「人生とは何か」。古くて新しい命題である。的確な答えは困難でも、「生きる姿勢」を家族で共に話し合う必要があるのではないか。物質的な豊かさの中で、大切な人間性が失われていく現実を、私たち大人も含めて、反省しなければならぬと痛感する昨今です。

(調査広報副委員長・長川敏彦)

### 〔編集委員〕調査広報委員会

委員長 細田美代子(福岡工業)  
副委員長 長川敏彦(大野)  
委員 丹内真波(紫波総合)  
堀田圭二(花北青雲)  
谷地保(大船渡)  
星法男(福岡工業)  
高橋秀幸(県高P連)  
木村智子(県高P連)

### ◇事務局

岩手県教育委員会  
生涯学習課